

騎士の名誉

Honor de Cavalleria

2006年|103分|デジタル上映|監督:アルベルト・セラ|原案:ミゲル・デ・セルバンテス|出演:ルイス・カルボ、ルイス・セラ|2006年カンヌ国際映画祭監督週間出品|2007年バルセロナ映画賞最優秀新人監督賞ほか



風車の出でこないドン・キホーテ物語。荒涼としながら官能的なカタルーニャの自然の中で、セラ監督が同郷の知人らを配役して制作。ドン・キホーテとその愛おしく相棒サンチョは無駄な時間をやり過ごすように昼も夜も平原を彷徨う。大作家セルバンテスが主題とした近代における騎士の可能性をさらにラジカルにしたような大胆さでカンヌ国際映画祭監督週間に選ばれ、世界の批評家を呆然とさせた記念すべき作品。

主はその力をあらわせり

El senyor ha fet en mi meravelles

2011年|146分|デジタル上映|監督:アルベルト・セラ|出演:マルティン・アネルハ、ルイス・カルボ、ジミー・ジムフェレ



映画作家、アルベルト・セラの姿を記録した貴重な長編ドキュメンタリー。バルセロナ現代美術館による映画作家の往復書簡シリーズ(リサンドロ・アロンソとセラ)の一環として制作された。セラは近い協力者と俳優たちとともに、長編第1作『騎士の名誉』の精神をたどり、ドン・キホーテが実生活を送ったラマンチャを訪れる。クライマックスのない主題、シュールなユーモア、光と音による映画の実験。

鳥の歌

El Cant dels ocells

2008年|98分|デジタル上映|監督:アルベルト・セラ|出演:ビクトリア・アラゴネス、ルイス・カルボ、マーク・ペランソン|2008年カンヌ国際映画祭監督週間出品|2009年ガウディ賞最優秀監督賞ほか



聖書に登場する東方の三賢人の物語。星を見てイエスの誕生を知り、その居場所を探し求める三賢人の旅はカナリア諸島とアイスランドで撮影され、不毛な土地、砂漠、水原を移動する小さな点のように捉えたモノクロ映像は、物語を解体するほどに美しい。タイトルはカタルーニャ民謡「鳥の歌」から着想、劇中ではパブロ・カザルスのバージョンを使用している。ふたたびカンヌ国際映画祭監督週間に選ばれた長編第2作。

併映:キュー・バリブレ|Cuba Libre

2013年|18分|カラー|2.35|デジタル上映|監督:アルベルト・セラ|ライナー・ヴェルナー・ファスビンダーと、彼の映画の常連俳優のひとりだったギュンター・カウフマンへのオマージュ的作品。

私の死の物語

Histoire de ma mort

2013年|148分|デジタル上映|監督:アルベルト・セラ|出演:ピセンヌ・アルタイオ、ルイス・セラ、エリセウ・ウエルタス|2013年ロカルノ国際映画祭グランプリ



セラ自身が「映画史上、前代未聞」と呼ぶ作品。女性遍歴で有名なカサノヴァ。彼がその最後の日々で不死を生きるドラキュラと出会い、崩壊していく物語。スイスの城で不道德にも祝祭的な日々を過ごしていたカサノヴァは、ある日、北ヨーロッパの田舎へと出かけ、そこで美しい娘たちと知り合うが、やがて娘たちはドラキュラの世界へと彼を導いていく。劇中の台詞「あなたは度を超している」そのものと言える映画。

ニコラス・レイ

孤独な場所で

In a Lonely Place

1950年|93分|デジタル上映|協力:シネマ・ヴェーラ|監督:ニコラス・レイ|出演:ハンフリー・ボガード、グロリア・グレアム、アート・スミス、マーサ・チュワート



ハリウッドの殺人事件を背景にした、ニコラス・レイの長編第5作。初期の傑作として名高い。頑固で暴力的なために一線から遠ざかっている脚本家の男が殺人の嫌疑をかけられる。男の無実を証言し、恋に落ちながら、男を知るほどに疑いに苛まれていく元女優の若い女。ボガード演じる善人とも悪人とも判断しがたいキャラクターが素晴らしい。

アレクサンドル・ソクーロフ

牡牛座 レーニンの肖像

Taurus

2001年|94分|35mm|協力:パンドラ|監督:アレクサンドル・ソクーロフ|出演:レオニード・モズゴボイ、マリーヤ・クズネツォーバ、ナターリヤ・ニクレンコ|2001年ニカ賞最優秀監督賞・作品賞・主演男優賞・女優賞・撮影賞・脚本賞・美術賞受賞



ロシア革命の指導者レーニンの最後の日々を描く。脳梗塞で療養中のレーニンは、右半身の麻痺のため体の自由がきかず、意識も混濁し始め、スターリンが見舞いに訪れても、その名前さえ思い出せない。共産党政権下で育ったソクーロフは自らカメラを回すほど力を注いで制作したという。ロシアのアカデミー賞に相当するニカ賞の主要賞を総なめした。

ルイス・ブニュエル

砂漠のシモン

Simón del desierto

1965年|46分|デジタル上映|協力:アイ・ヴィー・シー|監督:ルイス・ブニュエル|出演:クラウディオ・ブルック、シルビア・ビナル、エンリケ・アルバレス・フェリックス、オルテンシア・サントベニャ、フランシスコ・レイグラ|1965年ヴェネチア国際映画祭審査員特別賞、国際批評家連盟賞



砂漠の真ん中にそびえ立つ柱の上で、レタスだけを食ひ日々神に祈りを捧げ、6年6週6日の修行に励むシモン。メキシコ時代のブニュエルに欠かせない女優シルビア・ビナル扮する悪魔の誘惑を拒み、一段と高い、天国に近い別の柱に移り新たな修行を開始するが…。歴史上実在した柱頭修行者「聖人シメオン」の伝説を描き、ラストは啞然。

併映:アンダルシアの犬|Un chien Andalou

1928年|21分|デジタル上映|監督:ルイス・ブニュエル|脚本:ルイス・ブニュエル、サルバドル・ダリ|出演:シモーン・マルコス、ビエール・バチエ|ブニュエルとサルバドル・ダリが二人で制作。当時ムーブメントであったシュルレアリスムを初めて映画で表現した歴史的一編。

©1928 Les Grands Films Classiques, Paris

ラヴ・ディアス

立ち去った女

The Woman Who Left

2016年|228分|DCP|協力:マジックアワー|監督:ラヴ・ディアス|出演:チャロ・サントス・コンシオ、ジョン・ロイド・クルズ、マイケル・デマサ|2016年ヴェネチア国際映画祭金獅子賞(最高賞)



“怪物の映画作家”と呼ばれるフィリピン人の鬼オラヴ・ディアスの傑作。30年の歳月を刑務所で暮らしてきた元小学校教師のホラシアは、親友の衝撃的な告白により、無実が証明されて釈放となる。家族を失い、人生を壊されたホラシアは、自分を陥れた男を追って復讐の旅に出る。徹底的な長回しとロングショット、近年稀に見る圧倒的な映画の興奮を味わえる。

お前は誰だ!?

ルイ14世の死 公開記念特集上映〈21世紀の前衛〉アルベルト・セラ

英断なのか暴挙なのか? 今どきの日本でアルベルト・セラが公開されるとは! ともかくにも21世紀にこんな監督がいるという幸福に驚いてください。

1975年、スペイン・カタルーニャ州生まれ。〈21世紀の前衛〉と呼ばれ、ヨーロッパではすでに大きな注目集める映画作家、アーティスト。長編劇映画第1作『騎士の名誉』以来、歴史上・創作上の良く知られた人物を題材に誰も見たことがないような映画を創造し、世界を驚かせつづけている。2013年にはパリのボンビドーセンターにて大規模な回顧展が開催され、2018年2月にはベルリンのフォルクスビューネ劇場でイングリット・カーフェン、ヘルムート・バーガーを主演に迎えた舞台『リベルテ』を初演し、喝采を浴びた。長編劇映画4作目となる『ルイ14世の死』で日本劇場初公開。

5.19sat 13:30	5.20sun 13:30	5.21mon 13:30	5.22tue 13:30	5.23wed 13:30	5.24thu 13:30	5.25fri 13:30
騎士の名誉	主はその力をあらわせり	牡牛座		孤独な場所で	鳥の歌 + キュー・バリブレ [監督舞台挨拶]	騎士の名誉 [監督舞台挨拶]
16:00	16:20	16:00	立ち去った女	16:00	16:00	16:00
鳥の歌 + キュー・バリブレ	私の死の物語	狂乱の大地		砂漠のシモン + アンダルシアの犬	私の死の物語 [監督舞台挨拶]	主はその力をあらわせり [監督舞台挨拶]
19:00	19:10	18:50	18:40	18:10	18:50	19:10
牡牛座	孤独な場所で	騎士の名誉	鳥の歌 + キュー・バリブレ	私の死の物語	狂乱の大地	砂漠のシモン + アンダルシアの犬

当日料金:一般1500円/学生・シニア1,200円/会員1,100円

特別割引:特集上映の半券および『ルイ14世の死』の前売券ご提示の方は当日一般料金より200円割引(オンラインチケットでは本割引はご利用できません。)

「ルイ14世の死」公開記念特集上映
〈21世紀の前衛〉アルベルト・セラ

ルイ14世の死

劇場特別鑑賞券¥1,500(税込)販売中!〈当¥1,800のところ〉

★劇場でお求めの方にオリジナルポストカードをプレゼント(先着)

上映時間|11:20|13:45|16:10|18:35



アルベルト・セラ監督来館!

5/24[木]&5/25[金]13:30の回上映前&16:00の回上映前 舞台挨拶
5/26[土]13:45の回上映後&16:10の回上映前 舞台挨拶

特別講演開催決定 セラが語りつくすセラ

5/26[土]16:30~18:00|定員:50名
出演:アルベルト・セラほか
会場:イメージフォーラム 3F|入場料:1000円
★ルイ14世の死の半券または前売り券提示の方は無料
事前予約:info@moviola.jp 03(5366)1545(ムヴィオラ)

グラウベル・ローシャ

狂乱の大地

Terra em transe

1967年|107分|デジタル上映|協力:ブロードウェイ、アダソンソシア|監督:グラウベル・ローシャ|出演:ジャルデル・フイリョ、グラウセル・ローシャ|1967年カンヌ国際映画祭国際映画批評家連盟賞ほか|1968年ロカルノ映画祭グランプリ



架空の共和国エル・ドラドを舞台に、抑圧と解放をめぐる揺れ動く人々を描く壮大な寓話。理想に燃えたジャーナリストで詩人のパウロは、貧困と不正義の変革を目指すか、裏切られ失望する。パウロは武装闘争に向けて立ち上とうとするが…。公開当時、この映画のアナーキーさが映画界を超えて論争を巻き起こした。ローシャが「私にとって何よりも重要な作品」と語る傑作。

〈セラ監督お気に入り作品〉決定までの顛末

素晴らしいけど悩ましい!

上映作品を選ぶため、事前情報でセラが好きだと聞いていた監督たちの作品で、今日本で上映できるリストを送った。しかし、最初にセラから届いたセレクションは送ったリストは反映されていなかった。わずかに作しか最終的に上映できないリストだが、セラを理解するために紹介したい。①『青い海と白い鯨』ピーター・ギンペル&ジェームズ・リップスコム②『高校教師』ヴァレリオ・ズルリーニ③『男の傷』アイヴァン・パッサラ④『王女メディア』パソリーニ⑤『女狐』マイケル・バウエル&エメリック・プレスバーガー⑥『バルシファル』ジーバールベルク⑦『サムソンとデリラ』セル・B・デミル⑧『狂乱の大地』ローシャ⑨『Portrait-souvenir:マルセル・ブルーノ・ジェラルド・エルゾグ⑩『Beyond the law』ノーマン・メイラー⑪『片目のジャック』マローン・ブランド⑫『Crime and Punishment』チャオ・リャン⑬『夜の人々』ニコラス・レイ⑭『ケレル』ファスビンダー。なんと荒唐無稽で素晴らしいセレクション!と感動したが、上映可能と思った④⑬⑭も権利問題で上映できず、セラに再びリストを送りセレクトを依頼。だが、なかなか来ない。ようやく来たのが『砂漠のシモン』『牡牛座レーニンの肖像』『立ち去った女』とリストにないヴァスコ・ゴンティ『イノセント』。これは上映不可。ふたたびセラの回答を待ち続け、ようやく最後にニコラス・レイの『孤独な場所で』が入った。理想のカルト・ブランシュではないが、興味深いラインナップになった。

[シアター]

イメージフォーラム

03(5766)0114

http://www.imageforum.co.jp

[全席指定席・定員入替制]

